

第30回

若手研究者交流会

2015年

日時: **1月26日(月)**
18:00~19:00

場所: **臨床小講堂**

皮膚科 千貫 祐子 先生

Department of Dermatology
Dr. Yuko Chinuki

『食物・薬剤アレルギーの解析』

Food Allergy and Drug Hypersensitivity

教員(助教~准教授)、職員、大学院生、
学部学生等、どなたでもご参加いただけます。



連絡先: 若手交流会世話人
片倉賢紀・松崎健太郎 (環境生理学), 秋元美穂 (腫瘍生物学)

2015. 1. 20 (Vol.30)

食物・薬剤アレルギーの解析

皮膚科 千貫祐子

Food Allergy and Drug Hypersensitivity

Yuko Chinuki, Department of Dermatology

食物アレルギーとは「食物によって引き起こされる、抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状が惹起される現象」と定義される。免疫学的機序としては、IgE 依存性反応と非 IgE 依存性反応とに分けられ、多くは IgE 依存性である。食物アレルギーの発症は、感作成立と症状惹起の 2 段階からなるが、免疫学的機序はいずれの段階にも関与する。そして、これまで長らくの間、食物アレルギーの発症は食物の経口（経母乳）摂取による消化管での感作が主体であると考えられてきた。ところが近年、イギリスの Lack は疫学的研究から、同じ食物抗原でも、ある程度の量を経口的に摂取した場合には免疫寛容が誘導されるのに対し、微量が経皮的に侵入した場合には感作が成立するという「二重抗原暴露仮説」を提唱した。そして、本邦における「加水分解コムギ含有石鹼による小麦アレルギー」の事例は、図らずも食物アレルギー発症における経皮感作の重要性を証明する疫学的根拠となった。さらに我々は、マダニ咬傷に起因すると思われる獣肉アレルギー患者を多数経験している。獣肉アレルギーの主要原因抗原エピトープは糖鎖構造 galactose- α -1, 3-galactose（以下 α -gal）であり、獣肉アレルギー患者は、同じく糖鎖 α -gal を有する抗悪性腫瘍薬のセツキシマブにもアレルギーを生じることが分かっている。この現象もまた、一種の経皮感作による食物-薬剤アレルギーと考えられる。このような事例に関する我々の病態解明や予知予防について、最新の解析状況や取り組みを報告する。